

学童疎開 学1～学26

学-1



久木国民学校での受入式(昭和19年9月23日)
西船場国民学校(疎開先:島根県久木村)

学-2



疎開先に到着(昭和19年9月)
江戸堀国民学校(疎開先:島根県加茂町)

学-3



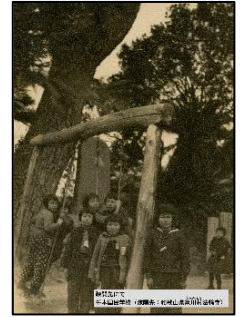
疎開先にて
阿倍野国民学校(疎開先:和歌山県麻生津村)

学-4



疎開先にて
曾根崎国民学校(疎開先:滋賀県湯田村)

学-5



疎開先にて
千本国民学校(疎開先:和歌山県亀川村法輪寺)

学-6



疎開先にて
清堀国民学校(疎開先:奈良県上市町浄宗寺)

学-7



寮舎での学習風景
南百済国民学校(疎開先:大阪府古市村)

学-8



鍛錬中の子どもたち
清堀国民学校(疎開先:奈良県上市町)

学-9



参拝後の体操風景
田辺国民学校(疎開先:大阪府長野町)

学-10



食糧の増産
阿倍野国民学校(疎開先:和歌山県麻生津村)

学童疎開 学1～学26

学-11



野菜洗いの手伝い
南百済国民学校(疎開先:大阪府古市村)

学-12



薪運び作業
清堀国民学校(疎開先:奈良県上市町)

学-13



農作業からの仕事帰り
阿倍野国民学校(疎開先:和歌山県麻生津村)

学-14



吉野川での鮎つり
清堀国民学校(疎開先:奈良県上市町)

学-15



食事風景
阿倍野国民学校(疎開先:和歌山県麻生津村)

学-16



食事風景
清堀国民学校(疎開先:奈良県上市町)

学-17



散髪風景
南百済国民学校(疎開先:大阪府古市村)

学-18



餅つき
中浜国民学校(疎開先:福井県今富村発心寺寮)

学-19



餅つき
中浜国民学校(疎開先:福井県今富村発心寺寮)

学-20



寮舎での学芸会
南百済国民学校(疎開先:大阪府古市村)

学童疎開 学1~学26

学-21



就寝風景
南百済国民学校(疎開先:大阪府古市村)

学-22



戦争が終わり、大阪へ帰る
難波国民学校(疎開先:滋賀県老上村)

学-23

戦時下の子どもたち

1941（昭和16）年4月から尋常小学校は国民学校と改称され、初等科6年、高等科2年の義務教育であった。子どもたちは「少国民」と呼ばれ、心身をしっかり鍛え、より強い日本の国をつくる人間になるためにと、新しい国定教科書による厳しい教育が行われた。

「少国民」と呼ばれた子どもたちは、数年前には戦地で、あるいは生産の現場で立派な「国民」となって国に尽くすことを期待された。「本土決戦」が叫ばれたときには、国民義勇隊に組み込まれ、空襲では率先して消火活動などにあたった。遊びや娯楽も戦意鼓舞の手段として利用され、子どもの遊びにも、戦争が色濃く反映されることとなった。

戦時下の子どもたち

学-24

學童集團疎開

—知らない土地で、ともに生き抜いた子どもたち—

都市への空襲が激しくなったため、1944（昭和19）年、政府は都市に住んでいる子どもたちを空襲の少ない地方へ疎開させることと決めた。近畿地方では大阪市・尼崎市・神戸市が対象となつた。地方へ疎開など身寄りのある児童は疎政疎開を、そうでない児童は、教師や寮母に引率され集団疎開した。食べ物も雨天で、一日三食を食べられない日もあり、子どもたちはひどい思いをしていた。

(注)
大田市では国民学校校務科3年生以上5年生までの約22万3千人のうち253校6万6千人(概数)が大坂市内を含め13府県に疎開した(のちに疎開した1・2年生も含む)。1945(昭和20年)3月以降、疎開地域が拡大され、大坂では堺市、高市市(現大坂市)、中口町(現中川区)が対象になった。

學童集團疎開

学-25

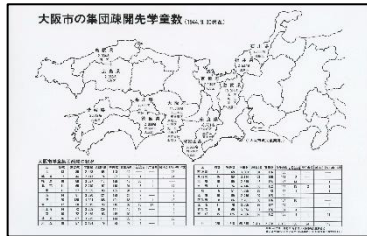
十六地藏

南無血僧国民学校(大阪市大正区)の3年生男子29名が
徳血僧貞光町(現つるぎ町)の貞光寺に集団避難中
の1945(昭和20)年1月29日の夜、本堂から出火し、
16名が亡くなった。戦争が生んだ悲劇であった。

1946（昭和21）年、黄光町の人々らの募金で寺に
地蔵尊が建てられ、亡くなった子どもたちの名前が
刻まれた。雨思加島小学校でも2003（平成15）年記念
碑が建てられた。

十六地藏

学-26



大阪市の集団疎開先学童数